
ダレン・ジャン

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダレン・ジャン

【Nコード】

N18970

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

ダレン・シャンが訴えてきたらどうしよう。。。裁判になったら。。。カネないよ！みんな、裁判費用ちょうだい！！！！

棺おけ

ダレン・ジャンは棺おけの中にいた。死んだのだ。

棺おけの外でお経が聞こえる。

「やばい。何か、むっちゃおもしろい。笑ってしまいそう」

ダレンは棺おけの中で必死に笑いをこらえた。

話は少し前にさかのぼる。ダレンは、友達のたけしと下校していた。すると前から野良犬が数匹やってきた。

「やいこらガキども。カネ出せや」

「骨でもいいぜ。出せこら」

ダレンはむかついた。こいつら犬の分際で人間様に。たけしは逃げよう逃げようと言うが、ダレンは野良犬の一匹の頭を叩いた。

「わおおおおん。わおおおおん」

「あつこいつ。リーダーを泣かせよつた。許せん」

そんなわけで、ダレンは野良犬たちにボコされ死んだのだ。もちろん、たけしは逃げたので助かった。

棺おけの外でたけしの声が聞こえる。

「なんで死んじゃったんだよう。なんで死んじゃったんだよう」

ダレンは棺おけの中で「けつよく言うよ」と軽く舌打ちした。

そして、棺おけは土の中に埋められた。

その夜、数人の男たちが、土の中を掘り起こし、棺おけを引っ張り出した。

棺おけからダレンが出てくる。

「誰だお前ら」

「ダレンさま。ぼくらは野良猫集団クレイジーニャンニャンの者です。助けてください。マッドドッグのやつらがぼくたちのシマを荒らして困ってるんです」

ああ。あの例の野良犬どもだな。

「わかった。あいつらには腹を立てていたとこだ。任せておけ」

「ありがとうございます！おいお前。ダレンさまにばしを差し上げろ」

「いらない！！」

ダレンはクレイジーニャンニャンのメンバーたちと車に乗り込み、真夜中の街を飛ばした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1897o/>

ダレン・ジャン

2010年10月11日01時55分発行